

自動車は販売増も生産が再び減少

銅スクラップは輸出減、輸入増

橋本金属
・アルミ
橋本健一郎氏リポート①



橋本健一郎氏

五月前半は、米雇用統計は雇用者数の増加、失業率の低下したこと。四月の中国HSBC製造業PMI改定値は四八・二に下方修正。

前月からは小幅上昇。四月のユーロ圏総合PMI改定値は五四・〇に据え置き、前月の五三・一から上昇。三月のユーロ圏小売売上高は前月比〇・三％増、予想は〇・二％増だった。などのプラス材料もあったが、FOMCで資産購入枠が月四五〇億ドルに圧縮されたこと、四月の中国製造業購買担当者指数が五〇・四と予想の五〇・五を下回ったことが嫌気されLME銅相場はDOWN。五月十四日時点で四、六六〇ドル(セツル)と、月初価格より三〇〇ドルDOWNの前半締めとなった。

後半は、四月の中国鉱工業生産が前年比六％増加、前月の六・八％増からは鈍化、事前予想の六・五％増も下回ったこと。四月の中国小売売上高は前年比一〇・一％増加、予想の一〇・五％増を下回った。などのマイナスマaterialもあったが、四月の米新築住宅販売件数は前月比一六・六％増の六一・九万件、予想の五二・三万件を上回ったこと、安部首相、来年四月の消費税率引き上げを二年半先送りする意向を正式に表明するなどを好感しLME銅相場はUP。六月二日現在、後半スタート価格から二〇ドルDOWNの四、六六〇ドル。銅建値五六万円となった。

◆月間のドル/円レート (TTS)

一〇七・四五→一一・三三(円)

◆自動車生産台数

日本自動車工業会によると自動車生産台数は前年比九・七％減の六四万三、九〇一台であった。

◆自動車販売台数

日本自動車販売協会連合会によると、自動車販売台数(軽除く)は前年比六・六％増の二二万三、七五三台。

◆新設住宅着工戸数

国土交通省統計によると、新設住宅着工戸数は前年比九％増の八万二、三九八戸であった。

◆貿易関連指標

輸出

財務省貿易統計によると、輸出は前年比で電気銅が九・九％増の三万七、五六四t、スクラップが二六・四％減の二万六、〇五八t。

輸入

輸入は電気銅が前年比七八・五％増の五、三五六

t、スクラップが二八・二％増の二万〇、四五三t。

■前月の国内指標

日本伸銅協会発表の伸銅品生産推移(速報)によれば、前年比一・四％減の六万六、四二〇t。日本電線工業会発表の出荷速報(推定)によると、銅電線出荷量は前年比三・六％減の五万六千tであった。

■概況

【自動車生産】

四月の四輪車生産台数は六四万三、九〇一台で、前年同月の七一萬三、二四〇台に比べて六万九、三三九台(九・七％)の減少となり、二月ぶり以前年同月を下回った。四月の車種別生産台数は、乗用車は五万四、三九七台で四万五、八四七台(七・七％)の減少となり、二月ぶりのマイナス。トラックは八万八、三四二台で二〇、五六八台(一八・九％)の減少となり、一二月連続のマイナス。バスは九、一六二台で二、九二四台(二四・二％)の減少となり、五月連続のマイナス。

四月の国内需要は三二万四、七四八台で、前年同月比一・六％の増加であった。うち乗用車二六万九、二五一台で前年同月比二・二％の増加、トラック五万四、四三五台で同一・三％の減少、バス一、〇六二台で同一・三・二％の増加。輸出は前年同月比二・八％の減少(実績)。

【自動車販売】

四月の国内自動車販売台数(軽除く)は二万三、七五三台で前年比六・六％増。二カ月連続のプラス。うち乗用車七・三％増、貨物二・一％増、バス二・一％増。

【住宅着工数】

平成二十八年四月の住宅着工戸数は八万二、三九八戸で、前年同月比で九・〇％増となった。また、季節調整済年率換算値では九九・五万戸(前月比〇・二％増)となった。

・利用関係別にみると、実数値では、前年同月比で持家、貸家、分譲住宅ともに増となった。

・住宅着工の動向については、平成二十六年四月の消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響からの持ち直しが見られた後、前年同月比で横ばいの傾向となっていたが、直近では四カ月連続での増加となっており、引き続き、今後の動向をしつかりと注視していく必要がある。

(六面へ続く)

今月の相場は原油や米利上げ動向が焦点

(四面より続く)

【伸銅品生産】

伸銅品生産は前年比一・四%減の六万六、四二〇tと一四カ月連続マイナス。このうち内需は五万五、九一〇tで〇・〇%減。輸出は一万〇、五一〇tで八・一%減と一三カ月連続マイナス。品種別では銅条二万〇、三九一tで四・五%減と一二カ月連続マイナス、黄銅棒一万五、三七六tで二・四%減と六カ月ぶりマイナス。

【電線】

前年比三・六%減の五万六、〇〇〇t。うち国内三%減、輸出が二・八%減。出荷部門別では、通信一六・六%減、電力八・一%減、電気機械五%減、自動車一・八%減、建設・電販一・五%減、その他内需一・四%増。

【輸出】電気銅輸出が九・九%増の三万七、五六四t。銅スクラップは二六・四%減の二万六、〇五八t。

【輸入】電気銅が七八・五%増の五、三五六t。スクラップは二八・二%増の一萬〇、四五三t。

【見通し】

・自動車は生産が九・七%減。五月の国内販売台数が前年比六・六%増。生産が二カ月ぶりマイナス、販売が二カ月連続プラス。生産が再びマイナス。販売に至っては大幅増！某自動車メーカーの燃費データ不正による影響が懸念される。

・住宅着工の動向については、平成二十六年四月の消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響からの持ち直しが見られた後、前年同月比で横ばいの傾向となっていたが、直近では四カ月連続での増加となっている。

・引き続き、今後の動向をしっかりと注視していく必要がある。

・伸銅品生産は一四カ月連続マイナスの前年比一・四%減。需要の多い銅条が一二カ月連続マイナス。黄銅棒が六カ月ぶりマイナス、輸出も前月に続き減少が続き一三カ月連続マイナス。黄銅棒が六カ月ぶりにマイナスに転じ、一万五千t台、今後の回復が望まれる。

・電線出荷は、輸出が二桁減少の二三・八%減。内需は三%減
・銅輸出は生産減による国内玉の需要減

から地金は増加、スクラップは発生難から減少。

・銅輸入は、地金・スクラップ共に内需の発生難から増加した。

【スクラップ需給予想】

流通在庫は、銅建値が六〇万円から一時五十四万円まで急落、六月初旬は五六万円まで回復してはいるが、依然四万円程度の損失が見込まれることから市中に出回らないのではないかと。

また引き続きほとんどの分野で生産減の現象が続いており発生難の状況が続いている。住宅の販売が多少上向き需要増が予測され、需給はひつ迫するのではないかと。

【価格・為替予想】

今月は、OPEC会議の内容及び米利上げに左右される。

原油に関しては、六月二日にOPEC合が開催予定。ただマーケットの予測はサウジアラビアがイランの増産凍結なしにOPECでの合意はしない方針をだしており増産凍結の可能性は低いことから四〇〇四ドルで推移するのではないかと。

米利上げ観測に関してはG七声明や日本の消費税先延ばしから考えれば、六月の利上げのコンセンサスをG七内で取った可能性が高く、利上げがあるのではないかと。

それらを踏まえた六月の銅価格は、OPECで増産凍結合意ができWTI原油が五〇ドル近辺で推移し、米国の利上げが先送りされた場合、五月高値の一段高五、〇〇〇ドルを予測。いずれかの場合は四、八〇〇ドル。下値はいずれの条件も達成できなかった場合三月もう一段安値の四、六〇〇ドル。

為替は六月の米利上げ観測によるドル高円安はあるものの、G七の流れを受けての介入がしにくい現状や追加的な金融緩和策が難しいことから円高が続くのではないかと。

それらを踏まえ予測は、上値は日本が何らかの為替対策を結果的に一切行わず、米利上げが先送りされた場合、一〇六円台(TTM)を予測。下値は、日本がさらなるマイナスイ金利策や為替介入などを行い、米利上げが行われた場合、一一〇円を予測。

銅建値に関しては五四〇〇五九〇円程度と予測している。